

## 未来に向けて育むどんぐりの森

TOTOが地域と連携してどんぐりの森を育む植樹活動が6月24日に弁城の奥池公園で行われました。9年目を迎えた今回は約100人の関係者が参加し、2時間かけて除草した斜面に新たなどんぐりの苗木を植樹。作業後は地域から福智町の特産品や料理が振る舞われ、疲れた参加者たちをねぎらいました。



↑木が大きく育つことを願いながら植樹を体験した初参加の大久保さん一家。

↓乗務経験が豊富な為我井真理さんが状況に応じたお辞儀の角度などを指導。



## 福智町職員接客研修 JALの一流のおもてなしを体感

日本航空(JAL)の客室乗務員を講師に招いた接客研修が6月26日に役場で行われ、職員約260人が接客のポイントを学びました。福智のまちづくりを支援するJALの協力で今回の研修が実現。人の第一印象は最初の15秒で決まることなど実務経験に基づいた指導を受け、全職員が接客に対する意識を高めました。

↓児童が輪になってライフジャケットの使い方や実際に使用する感覚を体験。



## まさかに備えて水辺の危険を学習

夏休みを前に、水辺の安全教室がB&G海洋センター(神崎)で6月30日に行われ、ジュニア教室の児童67人が参加しました。水難事故の多くが7・8月に起こることを受け、水泳時の危険や注意点を伝えるために開催。児童は着衣での水泳やペットボトルを浮き輪にする方法などを体験し、緊急時に役立つ技術を学習しました。

↓団体戦で主に先鋒として予選を勝ち抜き、柳ヶ浦高校を4年ぶりの全国大会に導いた杉虎之介くん。



## 激戦を勝ち抜き夢の大舞台へ

伊方出身の杉虎之介くん(高3)が6月17日に行われた全九州高校体育大会の柔道団体で3位に入賞し、インターハイへの出場を決めました。杉くんは約40人の部員が在籍する大分県の強豪・柳ヶ浦高校で1年生からレギュラーとして活躍し、今回悲願の出場権を獲得。8月8日から始まるインターハイでは高校生活の集大成を見せたいと闘志を燃やしていました。

## 向 JICAボランティア竹澤さんが町長を表敬訪問 上心を胸に海外でボランティア

JICAボランティアとして中国へ派遣される赤池出身の竹澤真利さんが、6月20日に町長を表敬訪問しました。竹澤さんは倍率4倍の厳しい審査を経て、初めての応募で見事合格。日本語教師として2年間中国江南省に滞在予定で「自分の技術力を向上させ、日本で中国の魅力を伝えたい」と意気込みを語りました。



↑「中国での経験を活かし、いつか福智町にも貢献してほしい」と町長が激励。

## 独創的なアイデアで器づくり

子ども会育成連絡協議会主催の「上野焼子ども作陶教室」が7月8日に金田分館で行われました。毎年定員以上の応募がある人気のイベントに、過去最多の小中学生100人が参加。子どもたちは上野焼協同組合加盟の全13窯元の陶芸家から直接手ほどきを受け、それぞれのアイデアを盛り込んだ自分だけの器を作りました。



↑星形や動物の形など、子どもたちならではの発想で個性あふれる作品を制作。

↓全国から集まった役員を代表し、供養の読経を先導する興国寺の横山住職。



## 南北朝時代からの足利尊氏とのつながり

14世紀半ばに戦没者の鎮魂と天下泰平を祈り、全国66か所に建立された安国寺。その中でも「随一」と評され、足利尊氏ゆかりの寺として知られる興国寺で、6月20日に全国安国寺会総会が行われました。全国各地の安国寺から約20人の役員が来訪し、今後の方針を協議。役員による読経も行われ、由緒ある古刹に厳かな声が響きました。